

月別	半旬別	最高気温(°C)		最低気温(°C)		平均気温(°C)		日照時数(hr)		降水量(mm)	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
10	1	18.7	17.8	5.7	7.2	12.2	12.5	28.9	24.4	-	14.1
	2	15.1	16.9	8.0	5.2	11.6	11.0	11.8	24.5	16.0	13.1
	3	18.0	15.9	3.2	5.2	10.6	10.5	43.2	23.8	7.1	17.7
	4	14.9	15.0	3.4	3.7	9.1	9.4	42.2	24.2	-	15.3
	5	18.8	14.0	2.8	2.8	10.6	8.4	38.6	22.6	0.9	10.2
	6	18.0	13.1	5.1	2.7	11.6	7.8	28.1	23.5	11.2	20.9
	上旬	16.9	17.3	6.8	6.2	11.9	11.7	40.7	48.9	16.0	27.2
	中旬	16.4	15.4	3.3	4.4	9.8	9.9	35.4	48.0	7.1	33.0
	下旬	18.1	13.5	3.9	2.7	11.1	8.1	64.7	46.1	12.1	31.1
	月平均(計)	17.2	13.1	4.7	4.4	11.0	9.9	192.8	143.6	35.2	91.6
11	1	13.0	12.5	2.3	1.8	7.7	7.2	27.8	22.8	27.0	13.9
	2	11.2	10.2	5.5	0.6	8.4	5.5	15.1	18.5	43.3	14.8
	3	7.5	8.1	-4.5	-0.7	1.5	5.3	36.7	17.5	0.1	17.2
	4	9.7	7.4	2.8	-1.7	6.5	2.9	8.6	17.5	72.0	14.9
	5	9.5	6.6	1.5	-2.3	5.5	2.2	21.3	15.8	12.2	13.7
	6	9.4	4.9	1.6	-3.4	5.5	1.0	4.5	15.6	3.9	11.2
	上旬	12.1	11.3	3.9	1.2	8.0	6.3	42.9	41.3	70.3	28.7
	中旬	8.6	7.7	-0.8	-1.2	4.0	4.1	45.3	35.0	72.1	32.1
	下旬	9.4	5.7	1.5	-2.8	5.5	1.6	25.8	31.4	16.1	24.9
	月平均(計)	10.1	8.3	1.5	-0.9	5.9	3.7	114.0	107.8	158.5	85.6

11 直まき夏秋キュウリの晩播限界

1 背景と特徴

本県の夏秋キュウリの主な作型は4月下旬～5月上旬は種の育苗による前進栽培と5月下旬～6月上旬は種の直まき栽培がある。しかし昭和51年のような異常気象にともなう晩霜などの気象災害が発生した場合、まき直しなどが余儀なくされる。そのため晩播限界の資料を得るため昭和52年に5月1日～8月1日までの種期と収量の結果が得られたので参考に供したい。

2 技術の内容

- (1) 経済的な晩播のは種限界は6月15日ごろである。
- (2) 適応地域……内陸平坦地

3 普及上の留意点

栽植距離及び整枝法は従来の方法でよい。

4 試験成績の概要

- (1) 試験課題名 野菜のは種期と収量
 (2) 試験年次及び場所 昭和 52 年 岩手県園芸試験場本場
 (3) 試験方法

1) 供試条件

は種期 5月1日(育苗)、6月1日、6月15日、7月1日、7月15日、
 8月1日

2) 供試品種 ときわ北星

3) 面積及び区制 1区 8.4 m² (10株) 1区制

4) 施肥量(10 a 当たり Kg)

元 肥 …… 堆肥 - 4,000、N - 15、P₂O₅ - 27、K₂O - 15

(CDU 磷加安 - 100、BM ようりん - 60)

追 肥 …… N - 28.8、P₂O₅ - 7.2、K₂O - 28.8

(4) 試験結果

収量のは種期別推移は遅まきほど明らかに低下するが、特に7月1日以降のは種で著しく
 低収となった。

(5) 主要成果の具体的データ

第 1 表 収量及び収量比

項目 は種期	10株当たり計(本)				10a 当たり換算 (Kg)			良果率	曲果率	くず果 率	収量比 (良+曲)
	良果	曲果	くず果	計	良果+ 曲果	くず果	計				
5月1日	329	242	221	729	6,795	2,620	9,425	41.5	30.6	27.9	102.2
6月1日	291	253	164	728	6,652	1,952	8,604	40.3	37.1	22.6	100
6月15日	275	211	78	564	5,783	928	6,711	48.8	37.4	14.1	86.9
7月1日	137	95	29	261	2,761	345	3,106	52.9	36.4	10.7	41.5
7月15日	65	65	20	150	1,547	238	1,785	43.3	43.3	13.4	23.3
8月1日	1	3	0	4	12	36	48	25.0	75.0	0	1.8

※ 10 a 当たり収量は 1 本 100 g として換算した。

第2表 時期別収量 (10株当たり本数)

は種期 及び収穫期	項目					累 計	累 計	は種期 及び収穫期	項目					累 計	累 計
	良 果	曲 果	く ず 果	計	計				良 果	曲 果	く ず 果	計	計		
5 月 1 日	7/6 ~ 10	0	1	0	1		6 月 1 日	-	-	-	-	-	-	-	
	11 ~ 20	18	6	4	28	29		-	-	-	-	-	-	-	
	21 ~ 30	95	34	39	168	197		7/29	1	0	4	5			
	8/1 ~ 10	37	26	52	115	312		8/1 ~ 10	21	28	30	79	84		
	11 ~ 20	31	31	34	96	408		11 ~ 20	46	43	25	114	198		
	21 ~ 31	45	47	39	131	539		21 ~ 31	73	59	30	162	360		
	9/1 ~ 10	53	55	35	143	682		9/1 ~ 10	48	54	38	140	500		
	11 ~ 20	30	27	6	63	745		11 ~ 20	50	36	17	103	603		
	21 ~ 30	20	15	12	47	792		21 ~ 30	52	48	20	120	723		
全 期	329	242	221	792		全 期	291	268	164	723					
6 月 15 日	-	-	-	-	-		7 月 1 日	-	-	-	-	-	-		
	-	-	-	-	-	-		-	-	-	-	-	-		
	-	-	-	-	-	-		-	-	-	-	-	-		
	8/5 ~ 10	6	6	3	15			-	-	-	-	-	-		
	11 ~ 20	28	19	12	59	74		8/19 ~ 20	3	1	1	5			
	21 ~ 31	63	48	13	124	198		21 ~ 31	21	14	4	39	44		
	9/1 ~ 10	78	41	22	141	339		9/1 ~ 10	31	18	6	55	99		
11 ~ 20	66	46	13	125	464	11 ~ 20	59	31	3	93	192				
21 ~ 30	34	51	15	100	564	21 ~ 30	23	31	15	69	261				
全 期	275	211	78	564		全 期	137	95	29	261					
7 月 15 日	-	-	-	-	-		8 月 1 日	-	-	-	-	-	-		
	-	-	-	-	-	-		-	-	-	-	-	-		
	-	-	-	-	-	-		-	-	-	-	-	-		
	-	-	-	-	-	-		-	-	-	-	-	-		
	9/5 ~ 10	12	9	2	23			-	-	-	-	-	-		
11 ~ 20	38	26	2	66	89	-	-	-	-	-	-				
21 ~ 30	15	30	16	61	150	9/24 ~ 30	1	3	0	4	4				
全 期	65	65	20	150		全 期	1	3	0	4					

第3表 時期別累計収量比(%) (10株当たり本数)

月/日 は種期	7/6 ~ 10	11 ~ 20	21 ~ 31	8/1 ~ 10	11 ~ 20	21 ~ 31	9/1 ~ 10	11 ~ 20	21 ~ 30
5月1日	-	-	3,940.0	371.4	206.1	149.7	136.4	123.0	109.5
6月1日	-	-	100	100	100	100	100	100	100
6月15日	-	-	-	17.9	37.4	55.0	67.8	76.9	78.0
7月1日	-	-	-	-	2.5	12.2	19.8	31.8	36.1
7月15日	-	-	-	-	-	-	4.6	14.8	20.8
8月1日	-	-	-	-	-	-	-	-	0.5

気象表(昭和52年)

月	半旬	最高(°C)		最低(°C)		平均(°C)		降水量(mm)		日照(h)	
		平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年
6	1	22.6	23.7	12.1	14.5	17.4	19.1	23.2	49.0	21.8	32.8
	2	23.7	28.2	12.5	16.3	18.0	22.3	26.0	0	24.0	38.1
	3	23.5	22.6	14.1	13.5	18.7	18.1	21.4	21.5	19.3	45.0
	4	23.5	18.4	15.0	11.3	19.3	14.9	22.8	5.0	21.4	21.4
	5	24.0	19.8	14.9	13.6	19.5	16.7	21.7	9.0	19.2	24.6
	6	24.6	25.5	15.3	17.0	20.3	21.3	20.9	3.0	19.7	37.8
平均合計		23.7	23.0	14.0	14.4	18.9	18.7	136.0	87.5	125.4	199.7
7	1	25.3	26.7	15.8	18.9	20.5	22.8	16.0	22.5	23.3	25.3
	2	25.5	23.5	17.5	16.7	21.5	20.2	31.4	13.7	17.5	23.5
	3	25.4	26.0	17.4	19.3	21.4	22.6	28.6	40.0	16.4	28.4
	4	28.1	27.1	18.3	17.8	23.2	22.5	22.8	11.5	26.5	33.6
	5	27.4	30.6	19.1	18.7	24.3	24.7	11.2	0	26.4	52.2
	6	31.1	32.3	21.0	20.9	26.1	26.6	35.9	0	30.8	60.0
平均合計		27.5	27.7	18.2	18.7	22.8	23.2	145.9	87.7	140.9	223.0
8	1	30.0	31.9	21.2	22.2	25.6	27.1	48.4	5	22.4	33.3
	2	28.9	26.5	19.3	18.9	24.1	22.7	19.2	81.0	27.9	40.5
	3	29.4	23.7	19.7	16.3	24.5	20.0	14.2	4.5	21.8	17.8
	4	28.6	25.4	19.6	20.1	24.1	22.8	20.4	53.0	18.9	12.7
	5	28.6	23.9	19.4	15.0	24.0	19.5	17.2	0	24.4	38.7
	6	27.5	25.5	17.8	19.3	22.7	22.5	26.6	53.5	23.9	20.7
平均合計		28.8	26.2	19.6	18.6	24.2	22.4	146.0	197.0	139.3	163.7
9	1	27.0	26.6	17.8	18.2	22.5	22.4	16.1	2.5	20.1	34.4
	2	25.0	26.2	16.3	19.0	20.7	22.6	35.8	59.5	16.5	19.3
	3	24.2	24.2	14.8	15.9	19.2	20.1	23.8	11.0	19.1	19.9
	4	23.7	23.9	13.9	11.9	18.8	18.7	25.1	24.0	12.2	31.2
	5	22.8	23.3	12.0	8.6	17.4	16.0	16.2	1.0	17.1	50.4
	6	21.6	22.4	11.1	10.1	16.2	16.3	19.4	2.0	18.6	34.4
平均合計		24.1	24.4	14.3	14.0	19.1	19.4	136.4	100.0	103.6	195.6

5 残された問題点

- 1) 秋季温暖な沿岸地域での検討が必要
- 2) 栽植距離及び整枝法とは種期の検討

6 参考資料 岩手県園芸試験場 昭52果菜試験成績書

12 リンドウの夜間保温による開花促進

1 背景と特徴

本県でのリンドウ栽培は現在、8～9月出荷の露地栽培が大部分であるが今後安定した産地として伸びていくためには、より長期間安定して供給できる技術が必要である。

近年は本県でも早出しリンドウの高値市況、労働配分等からハウスを使っての早出し栽培が試みられつつあるが、この場合の温度管理方法等については、まだ全く試験成績がないために様々の方法で対応している現況である。

そのため、リンドウの生育段階毎に夜の保温管理を組合せ、生育開花に及ぼす影響を検討した。その結果かなりの開花促進効果が認められたので参考に供したい。

2 技術の内容

(1) 開花期の調節

夜間の保温方法によって無加温ハウスで5月下旬から自然開花の前(6月下旬～7月中旬)まで長期間開花させることができる。

例

① 早期開花(5月下旬～6月上旬咲)目標

生育初期から、側芽発生後まで夜間ビニールトンネル等で内部保温する。

② 自然開花前(6月下旬～7月中旬)目標

1月上旬以降の無保温(外ビニールのみ)栽培でよい。

(2) 保温期間

側芽発生後は最低気温が6～7℃保てれば無保温でも開花は遅れない。

(保温期間が短縮され省力化できる。)

(3) 切花品質

今回の供試系では変異が大きく、明らかな差は認められないが、いずれも販売可能な程度の品質は得られる。

(4) 適応地域

全県に適応できるが特に雪積の少ない温暖な地帯での効果が大きい。